●エトピリカ

エトピリカは北太平洋に生息するウミスズメの仲間です。その名前はアイヌ語で「美しいくちばし」という意味があり、名前のとおり夏になると大きなくちばしはオレンジ色になり、眼の上に淡黄色の飾り羽がはえてきます。潜水能力が発達していて、海では20m～30m近くも潜り、エサの小魚を捕まえます。

翼を大きく広げて飛ぶように水中を泳ぐ姿をお客様にもぜひ見ていただきたいのですが、その姿はめったにお目にかけることができません。エトピリカがあまり水中に入らないのは、一緒に暮らしているラッコが深く関係しているようです。好奇心の強いラッコはエトピリカに興味を示して近寄り、時にはあの短い前足でつかまえようとします。ラッコは遊んでいるつもりでも、エトピリカにとっては笑い事ではありません。そこでエトピリカはラッコがぐっすり眠っている時を見はからって、水面で羽づくろいをしたり、水中に潜って悠々と泳いだり、まさに「はねをのばしている」のです。他にも、ラッコが何かに夢中になっている時に様子をうかがいながら水中に飛び込むことがあります。このようにしてエトピリカはラッコの生活リズムに合わせてうまく付き合っているようです。

(小林 夕希栄)

▲エトピリカ *Lunda cirrhata*

●ギンガハゼとニシキテッポウエビ

生きたサンゴを展示しているガラス水そうの一角で、ギンガハゼとニシキテッポウエビの共生を見ることができます。

体長10cmほどのギンガハゼがいる巣穴をしばらく観察していると、体長3cmほどのニシキテッポウエビが中から姿を現します。小さなハサミ脚を使って、まるでブルドーザーのように砂を巣穴からかき出すと後退りして巣穴へと引き返し、再び砂をかき出してきます。さらによく見るとニシキテッポウエビは巣穴の外では決して単独で行動することはなく、常に長い触角をギンガハゼの体に触れながら、寄り添うようにして行動しています。視力が弱いニシキテッポウエビは、巣穴をギンガハゼに提供するかわりに巣穴の見張り役になってもらっているのです。ギンガハゼは巣穴の周囲を警戒し、他の魚が近づくと大きく口を開けて威嚇して追い払います。

見る者を飽きさせないギンガハゼとニシキテッポウエビの持ちつ持たれつの関係は、この水そうではなんと3年間も続いています。飼育係は彼らの生活の邪魔をしないように、掃除のときなどには細心の注意を払っています。

(大澤 彰久)

▲ギンガハゼ *Cryptocentrus cinctus*とニシキテッポウエビ *Alpheus bellulus*

さかまた No.64

編集・発行 鴨川シーワールド

〒296-0041 千葉県鴨川市東町 1464－18

☎(0470)93－4803

発行日 平成16年12月

http://www.kamogawa-seaworld.jp

さかまた

鴨川シーワールド NO.64

座礁イルカの保護

▲タンカに乗せられたイチョウハクジラ

イルカやクジラは、海岸に打ち上げられ座礁（ストランディング）することが時折みられます。その原因はまだよく分かっていませんが、単独で座礁する場合では病気や外傷により衰弱していたり、親からはぐれた子どもが多く、保護が必要です。鴨川シーワールドは1970年のオープン以来、千葉県の海岸に座礁した11種16頭のイルカやクジラを保護し治療を行いました。係員による懸命な治療の甲斐もなく多くの個体は1ヶ月以内に死亡してしまいますが、中には大変珍しく、めったにお目にかかれない種類もあり、研究のための貴重な資料を残してくれています。今回は、これまでに保護した珍しい鯨類についてご紹介いたしましょう。

鴨川シーワールドで保護した座礁鯨類

S. coeruleoalba

G. griseus

保護年月日	種　名	性別	体長(cm)	体重(kg)	場　所	生存日数
1971年 2月17日	スジイルカ	メス	147	36	館山市那古船形	3
10月22日	ハナゴンドウ	メス	270	229	鴨川市鴨川漁港	207
1975年 2月 5日	カマイルカ	メス	146	33	富津市金谷	1
1978年 4月 7日	スジイルカ	メス	154	33	鴨川市東条海岸	1
1982年 8月 3日	イチョウハクジラ	メス	530	1,700	富津市竹岡	0
1983年11月 3日	スジイルカ	オス	232	128	安房郡天津小湊町	0
1986年 3月19日	コマッコウ	メス	214	165	安房郡富浦町	19
1988年 5月30日	コマッコウ	オス	202	226	長生郡一宮町	3
1994年 9月30日	マダライルカ	オス	192	68	館山市北条海岸	107
1996年 4月24日	スナメリ	メス	86	10	安房郡天津小湊町実入海岸	1
9月13日	マイルカ	オス	188	92	安房郡丸山町三島海岸	3
1998年 9月19日	サラワクイルカ	メス	219	125	鴨川市東条海岸	0
2003年 1月28日	コマッコウ	メス	186	88	安房郡和田町長者川	394
4月19日	ハナゴンドウ	オス	227	115	館山市塩見海岸	生存中
7月16日	カズハゴンドウ	オス	200	92	鴨川市前原海岸	92
2004年 1月10日	コビレゴンドウ	オス	255	252	勝浦市守谷海岸	生存中

迫力のイチョウハクジラ

1982年8月3日、富津市竹岡漁港にクジラが迷い込み、海岸に打ち上げられました。このクジラは、歯の形がイチョウの葉に似ているところからイチョウハクジラと呼ばれる種類です。傷だらけで弱っていましたが地元の人たちの強い要請により保護することになりました。しかし、体長5.3m、体重1,700kgもの巨体を鴨川シーワールドまで輸送するのは容易ではありませんでした。一番大きなシャチ用担架を準備し、悪戦苦闘の末4tトラックに乗せ、およそ1時間かけてなんとかイルカプールへ運び込みました。さすがに大きなクジラだけあって、長径25mのプールを尾ビレ二あおりで泳ぎきり、あらためてその大きさと力強さに驚かされました。しかし、懸命な手当の甲斐なくプールに入れてわずか6時間ほどで死亡してしまいました。

コマッコウの水中給餌

1986年3月19日、東京湾に面した安房郡富浦町の海岸で座礁したコマッコウを保護しました。プールに入れましたが、自力では泳げず浮いてばかりで全くエサを食べません。そこでリハビリを兼ねて係員が水中に入り餌付けを始めたところ、数日後には係員の手から少しずつエサを食べるようになりました。残念なことに19日目に死亡してしまいましたが、エサの食べ方や行動など生活の一部を観察することができ、飼育を通じて得たいろいろな経験や資料は、後のコマッコウ飼育に大変役立つものとなりました。

▲コマッコウの水中給餌

フロートを付けたマイルカ

1996年9月13日、安房郡丸山町の三島海岸に座礁したマイルカを保護しました。外洋性のマイルカは、姿や色彩がきわめて美しいイルカです。水深を浅くしたプールに収容しましたが、自力では泳げずに壁に衝突したり、横転して沈んでしまいます。そこでイルカの背中にライフジャケットを改良したフロートを装着し、体の傾きと沈みをなくすことで呼吸の確保をしました。なんとも奇妙な姿ですが、イルカの命を助けるために考えついた妙案です。残念ながらこのイルカは、わずか３日間で死亡しました。

▲背中にフロートをつけて泳ぐマイルカ

珍しいサラワクイルカ

サラワクイルカは生態に関する情報が少なく日本近海ではほとんど見られない種類です。1972年に鴨川で死亡して打ち上げられた個体が発見され、これが日本で最初の記録です。この珍しいイルカが1998年９月19日、鴨川市の東条海岸に座礁しているのが発見されました。沖で5〜6頭の群れを確認した数人のサーファー達が、このイルカを仲間の群れに戻そうと何度も試みましたが、再び座礁してしまうので保護の依頼が入ったものです。保護用具一式をトラックに積んでかけつけてみると体表には直径５cmほどの円形の傷や擦過傷が数カ所認められ、体力的にもかなり消耗している様子でした。輸送中、突然呼吸に異常が認められ、プールに入れる直前に死亡してしまいました。この珍しいサラワクイルカの泳ぐ姿を少しでも観察できたらと思われる貴重な体験でした。

▲座礁したサラワクイルカ

１年間に4頭を保護

さかまたNo.61では、2003年１月28日と４月19日に座礁したイルカ、「コマッコウ」と「ハナゴンドウ」の保護を紹介しましたが、その後、７月16日に鴨川市前原海岸でカズハゴンドウ、翌年１月10日に勝浦市守谷海岸でコビレゴンドウを次々と保護しました。いずれの個体も幼体で、保護した時は、体温が低く自力で泳げないほど衰弱し危険な状態でしたが、イルカの繁殖と治療を目的として1998年に建設された展示プールでの懸命な治療の結果、快復へと向かいました。１年間に４頭もの座礁イルカを保護することは大変珍しいことです。コマッコウとカズハゴンドウは死亡してしまいましたが、ハナゴンドウとコビレゴンドウは大変元気でちょっと変わった風貌が人気を集めています。

九死に一生を得たこれらのイルカたちを大切に育てていくとともに今後も座礁したイルカの保護に積極的に取り組みながら学術研究の分野にも役立てていきたいと考えています。皆さんも海岸で弱っているイルカを発見したら鴨川シーワールド海獣診療センター（0470-93-4806）へ是非ご一報下さい。

（佐伯 宏美）

トピックス

入園客数3,000万人達成

―拍手と感動が支えた3,000万人―

▲3,000万人目のお客様

8月20日に1970年10月のオープン以来、通算3,000万人目のお客様（千葉県東金市 子安三奈子様）をお迎えすることができました。

▲動物感謝祭、アシカに給餌

これを記念して企画された3,000万人記念感謝キャンペーン「拍手と感動が支えた3,000万人」の一環として、達成日当てクイズや記念出版など様々なイベントが行われました。10月1日から3日は「入園客数3,000万人達成感謝祭」が開催され、10月2日には、これまでに鴨川シーワールドを支えてくれた動物たちに感謝する「動物感謝祭」が行われました。このセレモニーの中で、入園客数3,000万人達成に貢献した多くの動物たちを代表して、現在飼育日本記録更新中で、日本初の人工授精による繁殖でも話題を集めたバンドウイルカの「スリム」、日本初の繁殖をはじめ3頭の子供たちの母親として、多くの方に親しまれているシャチの「ステラ」に水族館長より感謝状が贈られました。このセレモニーの後、お客様に「スペシャルプレゼンター」として動物たちにエサをプレゼントしていただく特別イベントが行われ、「スリム」や「ステラ」をはじめ、マンボウやラッコ、ベルーガ、アシカなどに普段は体験することができない給餌をしていただきました。また、11月2日には地元の鴨川市立図書館に水生生物に関する書籍40冊が寄贈されました。

▲総支配人より鴨川市長へ書籍寄贈

▲記念出版

鴨川シーワールドは、これからもより多くのお客様に感動をあたえ、より多くの拍手をいただきながら、海の生き物たちのすばらしさと、彼らがすむ自然環境の大切さを伝えていきたいと思っています。

（荒井 一利）

凍結精液によるバンドウイルカの人工授精ベビー誕生

▲親子でジャンプ（50日齢）

バンドウイルカの「ノーマ」が、人工授精による赤ちゃんを無事出産しました。人工授精は、人為的にオスの精液をメスに注入し授精させる技術で、当館では20年以上も前から研究と技術開発を進め、昨年、国内初の人工授精によるバンドウイルカ「サニー」が誕生しました。

▲精液は液体窒素で凍結保存される

「サニー」は、人工授精直前に採取された新鮮な精液を使用しましたが、今回はマイナス196℃で凍結保存されていた精液を使用しての人工授精で、国内初の快挙です。

昨年の9月12日に「ノーマ」に人工授精を行い、その後のホルモン検査や超音波診断などにより妊娠を確認し、静かに経過を見守ってきました。そして、人工授精から約1年後の9月19日に「ノーマ」の体温が低下するなどの出産兆候が認められ、9月21日午前0時19分、オスの赤ちゃんが無事誕生しました。

▲人工授精の様子

「ノーマ」は、これまでにも4回の出産経験をもつベテランお母さんなので安心していましたが、赤ちゃんは母乳を飲んでいるにもかかわらずなかなか太らないため、母乳の量が少ないのでは？と数日間は目の離せない状態が続きました。生後1ケ月を過ぎると体も大きくなり、お母さんの胸ビレをくわえて遊んだり、昨年生まれた「サニー」や「ルナ」とともに元気に過ごしています。

（井上 聡）

▲「ノーマ」の胸ビレにじゃれつく（1ケ月齢）

モラ モラ

●トドのレイが出産

6月21日にトドのレイが昨年に続いて２頭目の赤ちゃんを出産しました。多くのお客様が見守る中、午前10時45分に無事誕生した赤ちゃんは、体長約90cm、体重約18kgのメスです。とても元気で、生後6日目には水の中に入りはじめ、日に日に泳ぎが上達していき係員を驚かせました。今では岩の上に登りダイビングをする姿も見られています。エサにも少しずつ興味をもちはじめ、くわえて遊ぶようにもなりました。赤ちゃんの名前は公募され、応募総数7,349通の中より「ノア」という愛称が付けられました。今後もノアの成長とレイの子育ての様子を注意深く見守っていきたいと思っています。

（杉下 範洋）

●アカウミガメの子ども自然帰海

鴨川シーワールド前の東条海岸と前原海岸では、毎年６月から８月にアカウミガメが産卵にやって来ます。今年は5ヶ所で産卵が確認されました。その内、６月に河口で産卵された110個の卵は、台風６号の接近にともない「海亀の浜」に緊急保護され、８月上旬にはその卵から78匹の子ガメが誕生しました。飼育用に一部の子ガメを残し、33匹は入園客にも参加していただき放流しましたが、32匹はふ化脱出した「海亀の浜」から人の手を借りずに自力で歩き続け、夜の大海原へと旅立っていきました（自然帰海）。ひたすら海へ向かって歩んでいく子ガメたちを無事に育ってほしいと祈る気持ちで見送りました。

（齋藤 純康）

●フンボルトペンギンの巣立ち

９月上旬、ロッキーワールドでフンボルトペンギンのヒナが無事巣立ちました。フンボルトペンギンの繁殖は９年ぶりで展示施設をロッキーワールドに移動してからは初めてのことです。産卵した場所は屋外で、雨が降ると水が溜まってしまうため、ちょうど巣箱内で巣作りをしていた別のペアに仮親になって卵を温めてもらいました。産卵後41日目の６月８日、１羽のヒナが無事にふ化し、仮親によって順調に育てられました。ヒナ特有のふわふわした綿羽が抜け親と同じくらいの大きさになった頃、ヒナは巣から離れて自分でエサを食べるようになりました。こうして巣立ったヒナは、今では１日に700ｇのイワシを食べ、元気な姿を見せています。

（藤原 弘和）

●メルマガ会員を募集中！

最新情報やお得な情報を携帯メールに配信するメールマガジンの発行を、８月から開始しました。メルマガ会員に登録するだけで、タイムリーな情報が入手でき、鴨川シーワールドをより身近に感じていただけます。今までにもイルカの赤ちゃん誕生や、3,000万人の入園者達成など、月３回程度の最新情報を発信しています。QRコード、またはアドレス「ksw@tgap.jp」を入力し、空メールを送信すると返信用のメールが戻ってきますので必要事項を記入して登録して下さい。メルマガ会員の皆さんは鴨川シーワールドの入園料が20％割引きとなります。

（桐畑 哲雄）